

# 神学校献金の取り組み 浦和キリスト教会の場合

東京バプテスト神学校理事 岡田 利男

神学校献金には、西南学院大学の学生の奨学金としての献金（神学校献金Ⅰとします）と東京バプテスト神学校支援金としての献金（神学校献金Ⅱとします）の2種類になっています。数年前までは西南学院大学の奨学金受給学生が多くいたのですが、ここ数年は受給学生が少なくなっています。例えば、2016年度には神学校献金額（2,235万円）に対して貸与学生数が多かったため給貸与額は2,704万円となり、給貸与額が献金額を上回っていました。しかし、2017年度には給貸与額が1,795万円と給貸与額が献金額より下回らなくなり、今年度までその

状態が続いています。一方東京バプテスト神学校では、2014年度までは学生数が多く収入が支出を上回っていましたが、2015年度以降は学生数が減少し収入が支出を下回る年度も出てくるようになり、神学校運営が厳しい状況になっています。

そこで浦和教会では、これまでは神学校献金Ⅱに比べて神学校献金Ⅰの方に多く献金していたのですが、今年度は神学校献金Ⅰと神学校献金Ⅱを等分にすることに決定しました。

浦和教会の神学校献金の主な取り組みとしては、教会員が毎月の献金袋で神学校

献金をお捧げる他に、毎月第三週の主日に壮年がカレーを作り、その売り上げを神学校献金として献金を行っています。写真は壮年がカレー作りを行っている様子です。浦和教会では今後とも、神学校支援のために小さな働きをさせていただきますので、よろしくお願いいたします。



## 2019年度 後援会献金（個人）実績 2019年4月～12月末 93名 107件 合計 840,000円

芦沼光雄、伊藤真知子、井上昭子（2）、井上政博、井本義孝、吉岐基子、稲山良二、越智満、奥谷恭子、奥谷由行、奥田光子、奥田厚子、奥田稔、下舞賢一、下門秀子、加山礼子（2）、加藤郁雄（2）、岩瀬ミチ、菊地正弘、金香泰誠、熊木和子、古川博子（2）、戸井田敦子、後藤ますみ（2）、江原美歌子、高良相子、高柳美枝子、坂元幸子（2）、坂川里味、鮫島泰子、三木朋実、三木睦美、山崎清美、山本弘夫、四津明美、秋山信夫・純子、十時節子、小笠原真志一、小勝琢生（2）、小松澤一枝（2）、小平公憲、小柳隆司（2）、松田俊介、松田朝子、常廣澄子、森山ひろみ、森田敏夫、神山武、杉山初美、瀬戸口早苗、星田恒、西方泉、石垣茂夫（2）、石水美佐子、川勝高宏（2）、川平朝清、染森哲朗、村松理恵子、対田順明、大下仁、大城戸禮子、竹内正幸、樗澤和子、鳥山美恵（2）、辻真理子、鶴野博子、田村俊彦、田中宣之、渡部富夫（2）、都丸利子（2）、土井正雄、東方敬信、藤井秀一、那須幸子、内藤淳一郎、内藤将子、飯野寛、氷川英俊、富田信恵、福本峻平、文廷翼、米田景子、豊永義典、豊福義彦、北野弘子、木元和子、木原敬子、木村晋治、矢野由美、鈴木幸子、鈴木宗一、鈴木登喜子、澤田猛

### 東京バプテスト神学校の働きを支援するために あなたも「後援会」にご入金ください

1. 定期支援  
個人会員 年額1口 ¥5,000  
何口でも歓迎いたします
2. 自由献金支援  
支援額も、支援回数も  
ご自由にお決めください。

郵便振替口座  
**00210-8-75658**  
東京バプテスト神学校後援会  
※専用払込票をご希望の方は、  
メールにてお申込下さい。

#### 東京バプテスト神学校後援会

会 長 秋山 信夫（上尾キリスト教会牧師）  
副会長 山岸 明（仙川キリスト教会牧師）  
総 務 藤井 秀一（花小金井キリスト教会牧師）  
会 計 川口 通治（篠崎キリスト教会牧師）



東京バプテスト神学校  
後援会

No.28

NEWS

Homepage ▶ <http://tbts.jp> Mail ▶ [seminary@tbts.jp](mailto:seminary@tbts.jp)

〒112-0012 東京都文京区大塚1-1-18 茗荷谷キリスト教会内 03-3947-5141  
発行日：2020年2月6日 発行者：東京バプテスト神学校後援会 秋山 信夫

## 巻頭言

### 後援会への参加をお願いします！

後援会副会長 山岸 明（仙川キリスト教会牧師）

主の御名を賛美します。

いつも東京バプテスト神学校、神学生のために祈りとご支援いただき感謝いたします。今、全国の神学校が抱えている問題に神学生の減少、伝道者不足があります。このことは以前から大きな祈りの課題でありましたが、近年、更に加速し大きな問題となり深刻な状況になっています。原因としては教会の体力低下、教勢危機など様々なことがあげられています。今は自分たちの教会のことだけで精一杯だ・・・よくそのような声を耳にします。現在多くの教会がそのような状況の中にあるのではないのでしょうか。めまぐるしく変化する時代の中で5年先を予測することさえ困難であります。そういう中で東京バプテスト神学校は未来に向かって常にチャレンジをしています。教会も同じように変わることを恐れずチャレンジしていきたいと思います。

昨年、私たちの教会から一人の姉妹を東京バプテスト神学校の本科に送り出すことができました。教室での学び、またライブ授業での学びなど、神学校での学びの豊かさと、その喜びを

教会でシェアしてくださり、教会が元気づけられています。また、今春東京バプテスト神学校卒業予定の神学生からお便りを頂きました。そこには卒業後の進路についての思いが記されており、卒業後は牧師として献身したいとの思いが書かれていました。少し大袈裟だと思われるかも知れませんが、日本の教会のために一人の献身者が起こされた。このことは何とも言えない喜びに満たされるとともに、今後、更に東京バプテスト神学校への入学者、献身者が起こされますように、後援会も頑張っていきたいと思います。後援会は名前の通り『うしろだて』となって応援する地味な働きですが、この働きこそが今、必要とされていると思います。また、後援会会員になりますと神学校の授業料が1口座（15回）30,000円が半額の15,000円で受講できたり、年2回の夏期公開講座と冬期公開講座に至っても通常料金15,000円が半額の7,500円で受講できる特典がつきます。

最後に、東京バプテスト神学校は仕事を辞め、すべてをなげうって献身



する方の神学校ではなく、仕事をしながらでも主に仕えていきたいという方々に開かれている神学校です。働きながらの学びは決して楽なものではありません。今の神学生たちもきっとそうだと思います。多くの問題や課題を抱えながら、その重荷を背負いながら、それでも主に仕えたいと願い頑張っています。そういう方々が学びやすいように神学校は工夫をしつつ信仰を持ってチャレンジしています。未来の日本の教会のためにも、どうか神学生を送り出してくださいとともに、現在、学んでいる神学生を覚え、今後もお支えくださいますように、そして後援会に加わって頂き、ご支援を頂ければと願っています。どうぞ宜しくお願い致します。



## 卒業生の証

# 生きた学びの時

富田 愛世（市川大野キリスト教会牧師）

東京バプテスト神学校にはいくつかの特徴があります。その中で私が大切だと思えるものの一つに、寺子屋的な手作り感というものがあります。学校法人という縛りに捉われない神学校なので、教師も引退された牧師経験者や、現場で奮闘中の牧師先生方が大半を占めています。創設者の一人であり、いくつかの授業を担当してくださった M 先生は「東京バプテスト神学校の良いところは、寺子屋的で、牧師たちが手弁当で教えているところだよ」と語ってくださいました。

私が通っていた 30 数年前は、今のように学生数も多くなく、カリキュラムも整備されてはいませんでした。しかし、大変恵まれた時を過ごすことができたと思っています。

実際、本科3年目になる時、どうしてもカリキュラム通りに講座を持つことができなくなり1年延長しましたが、それも振り返ると牧会に出るための準備期間が備えられたのだと思います。さらに、人数が少なかったということによって、多くの授業で教師一人に対して学生が2～3人、時にはマンツーマンで授業を行っていただけたのは幸いな出来事だったと感謝しています。

また、授業の内容も型通りなものではなく、それぞれの先生方の個性あふれる、とても魅力的なものでした。もう天に召された H 先生は何の授業を担当されていたのか忘れてしまいましたが、内容は鮮明に覚えています。それは本から学ぶ神学ではな

く、その先生が聖書によって運ばれていった人生、牧会理念という神学を学ぶ時となりました。戦後、贖罪と和解のために毎年フィリピンに行かれていた先生は、現地に着くとすぐに古着屋に行き、日本から着ていった服と現地の服を交換され、できる限り現地の人と同じ生活をするようにして、様々な支援活動を行っていたことを毎回、話されました。科目の学びとして適切だったかどうかは、判断が難しいと思います。しかし、そこで聞いた話は生きた神学だったと思います。

もう一つ、印象に残った授業は K 先生が担当してくださった伝道演習的な授業でした。実際に K 先生の教会の特伝の前に最寄りの駅前でチラシを配るため、管轄の警察署に出向き、道路使用許可の書類を作成し、提出するまでをご一緒させていただきました。そこまで一緒にすれば、授業とは関係なく、チラシ配りの日も手伝いたくなり、一緒に駅前でチラシ配りをしたことを思い出します。

私が牧師として招聘された教会で、すぐに役立つこともたくさん経験させていただきましたが、その時には意味を理解することが難しいと思えたことでも 10 年、20 年と経験するうちに理解できるようになったこともたくさんありました。

最近、日本バプテスト連盟の中でも牧師と



しての在り方について、多様な在り方があると理解されるようになってきました。私の頃は「フルタイム」の献身者という考え方が主流だったように思いますが、今は兼職という考え方も一つの在り方として認められるようになったと思います。そのような時代にあって、東京バプテスト神学校のような多様な学び方を選べる神学校は貴重な存在ではないでしょうか。今の仕事を続けながら、牧師として教会に仕えていこうとしている方にとっては、仕事を辞める必要がなく、夜間であったり、通信であったり、インターネットで学ぶことができるというのは大きな力だと思います。

そして、神学校を卒業し、牧会に出た後は教えてくださった先生方が、同じ同労者として関わりを持ち続けてくださり、良き助言者、相談者となってくださいという事は本当に心強いことではないでしょうか。



崎山協力牧師が辞任されることになったその感謝会（12月29日）

## 在校生の証

### 「冬季講座を受講して」

芦沼 光男（ふじみ野バプテスト教会）

2019年12月26、27日の松見俊先生による公開講座に出席させていただきました。夏の講座に引き続き、「新約聖書をどう読むかII」をテーマとして5回の講義および先生を囲んでの懇談の時、今回も素晴らしい学びの時が与えられました。心より感謝いたします。

松見先生は、ご自身の信仰の歩み・組織神学者としての神学的立場を基に、夏に開催された青野先生の公開講座講義との対話も交えながら、主に「キリスト教信仰の出発点としてのイエスの『復活』（顕現）」「イエスの十字架での刑死と贖罪論の展開」「『降誕物語』の位置づけと神学的意味」を語ってくださいました。

普段なかなか聞くことができない、神学的な課題を解かり易くお話して下さり、聖書に基づく説明は肯かされることばかりでした。聖書をどう読むか、どのように関連しているのかも学ばせて頂きました。

また先生は、資料の中で多くの神学者の学説を紹介してくださいました。学問的な立場の違いはあるものの、お一人お一人の信仰がその根底にあることもお話し下さり、神学を学ぶことの素晴らしさを改めて感じた次第です。

2020年度も8月と12月に公開講座が開講されます。皆様も一緒に学ばれては如何でしょうか。



### 連続講座「バプテスト史」を受講して

皆さんの中で、バプテスト教会を選んでこられた方は少ないと思います。私もたまたま行った教会がバプテスト教会でした。総会が大切なこと。聖書が何より基準であること。礼拝のスタイルも、主の晩餐式の考え方も、各教会が選りとりで行く事。牧師が退任したら、一信徒として教会に集う。それが普通と思って教会生活をしていました。けれど、それはバプテスト教会の勝ち取ってきた信仰でした。他教派では驚くほど違います。また、バプテスト教会の歴史を学ぶことで、今の私たちの信仰がどんな風に支えられてきたか、また私たちがどんな風に支えて行くべきかを、

### 「信徒のための聖書解釈学～マタイ福音書を読み解く」をビデオ受講して

氷川 英俊（百合丘キリスト教会）

東京バプでの学びには以前から興味があったのですが、なかなか平日の夜に時間をとる事が難しく諦めていました。しかし、今回ビデオ受講というものがあることを知り、初めて受講しました。ビデオ受講ですので、自宅で夜ゆっくりとビデオを見たり、時にはカフェでビデオを見たりなど、自分の好きな時にインターネットを通して授業を受ける事ができたのでとても便利でした。また、レポートの提出を通して自分の考えをまとめる事もできました。

講義の内容は、川口先生、高木先生、松村先生の3人の牧師先生によるそれぞれ違った立場からのマタイの福音書の釈義と、最終回の青野先生の総括でした。歴史的・客観的な読み方、正典的な聖書の読み方、さらには教会論的な聖書の読み方といった三つの聖書の読み方の講義を通し、これまで知らなかった聖書の読み方に若干戸惑うこともありましたが、結果的により深く聖書について学ぶ事ができました。また、講義の中で数多くの文献が紹介されましたので、少しずつそれらの本を購入して読んでいくことによって、更に聖書の理解が深める事ができればと願っています。



### 新田 裕子（西川口バプテスト教会）

漠然とではありますが、示された思いがします。自分にとっての当たり前が、決してそうでは無く、大昔のバプテストの信仰を持ったクリスチャンが戦って勝ち得たものであり、つい何十年前の、アメリカのバプテスト教会の方からの莫大な支援で、今の教会がある事。そして今の私たちは世界に神様を伝える期待を神様から頂いている事。たくさんの宿題を貰った授業でした。

